

校友会報

日本大学工学部校友会

第79号 平成28年3月1日



INDEX

- ごあいさつ 2
- 平成27年度 第58回通常総会報告 3
- 第35回「母校を訪ねる会」を開催 3
- 校友会キャンパスツアー報告 5
- 「母校を訪ねる会」校友茶会 6
- 平成27年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して... 7
- クラブ・OB・OG会報告 12
- 支部活動報告 14
- 校友レポート 17
- 工学部NEWS 18
- 校友会NEWS 20

工学部長 出村 克宣



平成 28 年の早春を迎え、校友の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。又、工学部校友会並びに校友の皆様には、工学部の教育・研究活動にご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

平成 27 年度の話題のいくつかを挙げれば、平成 26 年度の就職率は 99.2% であり、一般入学試験における志願者数も年々増加している傾向にあります。

一方、日本大学創立 130 周年記念事業の一環として建設が進められてきた学生寮「バンデリアン郡山」が 3 月中旬に竣工し、通学路も拡張されて万年堀に代わりフェンスが設置されます。なお、学生寮の名称は、「絆」を意味するドイツ語とフランス語の読みを書きつづったものです。

平成 27 年 9 月には、郡山市湖南町の廃校・旧赤津小学校に設けた「郡山市・日本大学工学部再生可能エネルギー共同研究施設」の開所式を行い、「浅部地中熱」利

用技術の実用化研究が始まりました。この取組みは、廃校利用のモデルとしても期待されるものです。又、外部研究機関や企業とも連携した研究が活発に行われ、ロハスの工学をテーマに行ってきたこれまでの研究活動が外部研究資金獲得の増加や地域貢献につながっています。そのような研究活動は教育活動の基盤となって学生の活躍をもたらしており、大学院生や学部生が全国レベルの学協会賞などを多く受賞した年でもあります。

一方、10 月 23 日には、昨年、日本中を熱狂させたラグビーワールドカップ（W 杯）イングランド大会に日本代表として出場した大野均選手（平成 13 年 3 月、機械工学科卒）が工学部を訪れ、大会の報告をいただきました。様々な分野で校友が活躍していることを大変うれしく思います。

これからも教職員一丸となり教育・研究活動に携わってまいります。校友の皆様には、今後とも工学部の教育・研究活動にご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、校友諸氏のご健勝とご活躍並びに、工学部校友会のますますの発展を祈念いたします。

校友会会長 手塚 公敏



平成 28 年の早春にあたり、校友の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、校友会に対しても温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、校友会は昭和 33 年に発足し、今年で設立 58 年を迎えました。その間、校友会員は全国に広がりその数は約 6 万人に達し、北は北海道から南は九州、四国まで支部が設立されました。各支部においては、お互いの融和をはかりながら親睦を深め、活発な支部活動が続けられております。これをみると、日本大学 15 学部の校友会の中で、工学部校友会こそ最も強い絆で結ばれた校友会で、これこそが本来の校友会の姿であると自負しております。会員の皆様には、近くで支部の集まりが開催されますときには、是非、参加していただきたいと思

います。

工学部校友会は、平成 27 年度におきましても多くの事業を行ってまいりました。ここに、そのいくつかをご紹介します。

まず、平成 26 年度の工学部卒業生の就職率は、前年に引き続き日本大学 15 学部の中で最高の就職決定率（約 99%）でありました。これは、平成 26 年に引き続き、平成 27 年にも続けていることですが、父母会の支部総会に校友会の支部役員が出席させていただき、学生、ご父母の就職に関するご希望をお聞きしたり、現状をお話することで相互に理解した上で保有する情報を共有し、有効に活用する機会を設けております。この様な地道な努力が工学部の就職率を高めることに、微力な

がらも貢献しているのではないかと考えております。なお、平成 27 年度についてはまだ集計がされておませんが、昨年度以上の結果が出ると思っております。

次に、10 月 24 日、25 日の北桜祭期間中には、母校訪問で来校する「今浦島」の感のある卒業生のために、学内を案内し現状を説明する「キャンパスツアー」を企画しました。昨年度から実施した新事業ですが、非常に好評でしたので今後も継続していきたいと思

います。

さらに、12 月 5 日に開催された「工学部学術研究報告会」には、主に、全国の工業高校で教鞭を執られている工学部校友会教員部会（通称：アカシア教育研究会）の会員が約 70 名参加されました。当夜、工学部の先生方を含め約 90 名による懇親会が開かれましたが、教員部会の先生方の母校を思う気持ちは熱く、今後の母校発展のために有意義な会であったと考えております。

一方、我が工学部校友の社会における活躍に目を転じますと、佐藤勉君（土木工学科・昭和 50 年卒）が現内閣において平成 25 年 10 月から連続 3 期の自民党国会対策委員長の大要職に就任し、その責務を十分に果たしておられます。これは校友の誇りであると思っております。また、スポーツ界においても、大野均君（機械工学科・平成 13 年卒）がラグビーのワールドカップに日本代表として出場し、めざましい活躍をしたことも申し添えておきます。

最後に、工学部校友会・通常総会は、従来 3 年に一度、東京で開催してまいりました。

しかし、最近の諸般の事情から今後は母校工学部で開催することとなりましたことを、ここにご報告し、末筆ながら皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成 27 年度 第 58 回通常総会報告

平成 27 年 4 月 25 日(土)、工学部 62 号館 3F 大講堂にて平成 27 年度第 58 回通常総会が開催されました。議事に先立ち議長に脇山亨治氏(建 29)、議事録署名人に古河幸雄氏(土 23)、蔭山寿一氏(建 28)、書記に柳啓氏(建 19)、永田直史氏(機 29)をそれぞれ選出。承認事項、議案事項ともに賛成多数で可決されました。また、本年も体育会、学術文化サークル連合会、北桜祭実行委員会、応援団に所属の学生数名が参加しました。

総会後の懇親会は日本大学関係者を始めとした来賓の方々をお迎えし、盛大に行われました。卒業生同士の懇親を語る場というだけでなく、仕事面の人脈を広げるといったことで参加される方もいらっしゃいます。また、年々様変わりしていくキャンパスをご覧いただくことも含めまして、校友の皆様の多数のご参加をお待ちしております。



● 校友会功労者の表彰

本会の会務遂行ならびに発展に貢献した功労者 6 名に表彰状、記念品を贈呈しました。

所 属	氏 名	卒科回	活 動 歴
関 東 支 部	藍郷黎治郎	土 14	関東支部千葉県校友会会長として工学部校友会の発展に寄与する。
北 陸 支 部	岩 名 涼	土 22	北陸支部設立の中心となり、平成 23 年には支部長に就任され、長きに亘り北陸支部の発展に大きく貢献された。
東 海 支 部	緑川 秀人	機 3	昭和 47 年度東海支部発足時に副支部長に就任され平成 11 年 7 月までの長きに亘り副支部長として東海支部活動に尽力されたため。
東東海支部	渡辺伸一郎	建 20	東東海支部設立にあたり、その中心となり活動され、その後も就職支援等、在学生のためにも多大な貢献をされた業績は大なるものであった。
教 員 部 会	久保田幸正	建 19	教員部会設立にあたり、その中心として活動された。又、後輩の育成に多大な貢献をされた。



第 35 回「母校を訪ねる会」を開催



北桜祭（工学部祭）の最終日にあたる平成 27 年 10 月 25 日(日)、第 35 回「母校を訪ねる会」が開催されました。
秋晴れのもと、今回は 193 名のご参加をいただきました。受付を済ませると、茶道部のお茶のおもてなしがあり、秋色の風景を眺めながらくつろぐ皆様のご様子が窺えました。

懇親会では、再会された旧友や恩師との懐かしい語らいに花を咲かせる中、恒例の應援團による校歌・応援歌斉唱が披露されると、会場は更に盛り上がりを見せました。

次回は、14 回、24 回、34 回、44 回、54 回卒の皆様が対象学年となっておりますので、たくさんの皆様のご参加をお待ち申し上げております。



第23回・昭和50年卒



第33回・昭和60年卒、第43回・平成7年卒、第53回・平成17年卒

第2回校友会キャンパスツアー報告 61名が参加



昨年10月24日(土)・25日(日)の2日間、母校を訪ねる会該当校友対象の第2回校友会キャンパスツアーを企画しましたところ61名の皆さんに参加していただきました。両日とも、天候に恵まれ、24日午後に2班編成、25日午後は母校を訪ねる会終了後に3班編成にて各約1時間40分にわたってキャンパス内の校舎建物を見ながら散策し、6箇所の見学をしていただきました。見学1『ロハスの家』では機械工学科の伊藤耕祐先生・宮岡大先生・研究生の皆さんに、見学2『ロハスの橋』では土木工学科の岩城一郎先生・子田康弘先生・研究生の皆さんにそれぞれ解説いただき、見学3は毎年開放している『校史資料室』で校友会の木村圭二特別顧問が解説しました。見学4の70号館9階の展望フロアからは郡山の360°を堪能していただき、今回新たに加わった、土木工学科の中野和典先生解説による見学5『ロハスの花壇』と生命応用化学科の春木満先生(25日)、平野展孝先生(24日)による見学6『研究室訪問』を最後に終了となりました。今回も多数の校友にご参加いただき、ありがとうございました。そして、見学箇所解説でご協力いただきました各先生・学生のみなさん、ガイド担当の校友会勇士のみなさんに、厚く御礼申し上げます。次年度も実施予定です。



「母校を訪ねる会」 校友茶会

今年度も母校を訪ねる会に併せて、校友茶会を開催しました。

卒業生をはじめ、たくさんの皆様にお越しいただきました。茶道部の学生の協力により、お点前したお茶と季節の和菓子が供されました。訪れた皆様には、普段味わえない茶道の文化を満喫していただくことができました。



母校を訪ねる会を終えて—茶道部のこれから—

情報工学科3年 田中 大貴

前年度に引き続き、平成27年度もまたお茶会を設けていただきました茶道部でございます。

もはや毎年恒例となりましたこのお茶会ではありますが、今年度は用意していたお菓子をすべて捌くことができました。これは新生茶道部史上はじめての出来事です。茶道同好会から始まり茶道部へ。歴史は浅いながらも地道に続けてきた成果がここに結実したことを実感しました。これもお引き立てくださった校友会、母校を訪ねる会参加者の方々、並びに熱意あるご指導をしてくださる馬場教諭、佐藤教諭のお陰でございます。この場を借りてお礼申しあげます。

今年度のお茶会は楽しめたでしょうか。日々の稽古の中でお点前、お作法の研鑽はもちろんですが、「おもてなしの心」についても学ばせていただいております。年を重ねるごとに部員の練度も一様に増し、年々より良いおもてなしができてきていると自負しています。母校を訪ねる会へ茶道部代表として登壇した際、皆様の楽しそうな笑顔を拝見させていただき、よりその自信を確たるものとできました。私たちのお茶会が皆様のご歓談、そ

して笑顔に花を添えられたのなら、それ以上の喜びはありません。

今回のお茶会で初めてお抹茶を含んだという方もいらっしゃるでしょう。私たち茶道部はより多くの方にお茶をふるまえるよう活動の幅を広げることを考えております。現在も来年度に向けた対外的なイベントを企画中です。今後イベント開催に漕ぎつけた折には皆様へもご案内できればと思います。

茶道部は過去、部員数の減少により部活が潰れました。復活してまだ間もない部活ゆえに皆様のご支援が必要になる時もあるかと思いますが、私たちもより一層稽古に励み今回のようなお茶会などを催すことで、皆さま、ひいては日本大学工学部へ還元できればと考えております。つきましてはこれからも応援の程よろしくお願いします。

最後になりますが、母校を訪ねる会の参加者の方々、校友会の皆さま、大学関係者に対し、感謝をささげるとともに皆様のご多幸とご健康をお祈りすることで結びの言葉とさせていただきます。

平成 27 年「母校を訪ねる会」「同級会」に参加して

卒業半世紀後の同級会

土木 13 回卒 石井 和樹



恒例の工学部および校友会主催の「母校を訪ねる会」に招待賜り感謝申し上げます。この機会に土木 13 回の同級会を郡山ビューホテルアネックスで開催しました。

思いおこせば、50 年前は交通機関の高速化対策の波で新幹線、地下鉄および空港など多岐にわたってインフラ整備計画が促進されました。そのような状況下で土木工学科を専攻する受験生にとってはまたとない好機で、将来の前途は明るく希望を抱いて閑静な郡山の地を学びの場とした記憶がよみがえります。

当時の下宿代は 5,000 円～ 6,000 円程度で、3 食賄付の相部屋生活でしたが、他学科の情報が得られ、有意義な日々を過ごすことができました。ある日、初めての土木製図に挑戦していると、建築学科の先輩から烏口の使い方を丁寧に指導していただいた記憶が脳裏に浮かびます。

在学生諸君は個人のプライバシー確保のため自由奔放なアパート暮らしで青春を謳歌することも大切ですが、良き友人との絆を極めて勇往邁進していただきたい。最近の就職状況では忍耐力の欠如が問題視されていますので、クラブ活動や趣味で自己啓発に努めてください。

同級会の酒宴の席に校友会代表として先輩の村田吉晴先生が同席され、工学部と校友会の現状報告を拝聴しました。我々の教育指導に携わった先生の大半が他界され時代の流れを感じます。さらに各種施設の変貌が紹介され皆一様に時代の格差を痛感した次第です。

現場監督者は日本各地の公共施設を自らの手で建設した自負心が認められた。彼等の作品は孫の代まで語り継がれることでしょう。表面上は屈強な指導的立場に熟達されていますが、年齢相応に健康面の話題となるとトーン・ダウン、しかし孫の話となると優しい表情がかいま見え、今では転勤族を返上し家庭思いの大黒柱に落ち着き、趣味などを満喫しているさまが微笑ましく思えました。

最後に母校を訪ねる会に尽力されました方々に感謝申し上げます。日本大学工学部および校友会のさらなるご発展を祈念いたします。

卒業50年母校を訪ねて

機械 13 回卒 袖野 恵嗣

私は大学を卒業後、50 年近く、鉄鋼プロセスライン用溶接機の開発・設計に携わりました。今では日本の製鉄技術は世界のトップですが、その鉄づくりの技術の一翼を担う溶接技術も私の属した三菱電機はそのトップグループにあります。私はその草創期からずっと係り走り続けた思いがします。そして狭い世界ですが些か、自負もあります。

最近引退し、自分の一生を振り返ってみるこの頃、郡山で過ごした 4 年間は人間形成の最も重要な時代でした。現在の工学部の前進である第二工学部を卒業して 50 年目にあたる昨年、母校を訪ねる会の案内が 8 月に届きました。心身共に元気な間に、この案内に従って、もう一度過ごした大学時代のことを思い出してみたいと決断しました。友達も、学校も、町もどう変わっているだろうか期待と心配が半分ずつでした。

10 月 24 日(土)夕方郡山に着き、駅前のホテルにチェックインし、繁華街へ出かけました。新幹線が通り、昔の街並みは 90%変わっていました。翌日、駅前から学校の用意したバスに乗って、母校を訪ねる会に出席しました。この日集まったクラスメートは、18 名でした。皆の顔と名前は一致しませんが、同じ卒研グループの 2 人は、すぐ見つかりました。一緒に過ごした出来事、安達太良山登山、スキーに行った思い出が蘇りました。ハードは変わっても、人の心は変わっていないのに安堵しました。最後に、校友会事務局は学内研究室を始め立派過ぎると思う、9 階建ての校舎の最上階に案内してくれました。この日は天候に恵まれ、学校の西隣を流れる阿武隈川の向こうにくっきりと安達太良山、更に遠くに薄く磐梯山が見えました。もう一度、昔を思い出して安達太



良山に登ってみたいと友に話したら、「その時は付き合うよ」の返事が50年の空白を埋めてくれました。その日の夜は駅前の居酒屋でクラスメート（アカシア40会）の仲間全員と昔に返って、時間を忘れて話し続けました。それで友の一人が詠んだ句、

「飲み過ぎの同級会や寒波くる」正泰

「アカシア40会」の皆は翌日、野口英世記念館～会津若松～大内宿～塔のへつりのコースで、観光バスツアーとのことでした。

私は、その夜郡山で皆と別れて東京経由、新幹線で大阪に帰りました。「アカシア40会」次回は2年後に仙台で行うとの事、私への土産は4年後に大阪で「アカシア40会」でした。その時の幹事が務まるよう元気でいられるよう頑張りたいと思っています。

つれづれなる50周年

電気 13 回卒 菅生 貞勝



学窓を出て、つれづれなる50年の歳月が過ぎた。様々な道程を辿って、嘗ての若者達が姿形を変え、ここ工学部の地に26名が集った。学んだ学園に特別な思いを抱いて、第35回母校を訪ねる会に出席した。時に北桜祭と重なり、多くの学生や市民が参加し、如何に工学部がこの地にどっしりと根を張ったのか理解できた。

あまりの変貌に浦島太郎の心地でかつて学んだ校舎、そして発展を遂げた展望ラウンジで、懐かしい周りの山々及び郡山の街並みを一望してあっという間に時間が過ぎた。

その後、2015年10月第7回同期会が地元有志の案内によって、栃木県において開催され、名湯と謳われた塩原温泉に宿泊した。そこでは、坂本代表幹事の挨拶のあと、一連の行事が続き、遠路遥々九州の地より出席してくれた伊藤順文君の乾杯の音頭で始まった。参加者各位が近況を語り、懐旧の念に浸かり、50年前の若き日々の武勇伝を讃え、明日の見学会へと夢を膨らませていった。

翌日は、あの荘厳な日光の陽明門を見つめていた。日本の素晴らしい伝統的な技術の粋を、全て網羅したであろう建築物の佇まいに76の瞳が凝視していた。

展開されている技術の素晴らしさとその驚嘆は、恰も

1965年4月電気工学科の同志が自らの力で、社会に旅立とうとしている、若きエンジニア達の闘志を彷彿とさせる38人の姿がそこに在った。

電気工学科、紅顔の美少年達が大きいなる大志を抱き、艱難辛苦に揉まれながら様々な形で社会に貢献し、功を為し、名を成した戦士たちも、疾うに古希が過ぎ余暇を愉しむ齢となった。

この間、同期会は1997年（卒後32年）東京上野から始まり、今回の開催で延べ260名の会員が参加した。栃木開催にあたり地元幹事山口、伊藤両君のご尽力を賜り誠に有難く思う。

共に学んだ学友たちと最後と思われたこの行事が多くの友の協力で挙行できたこと、各位に感謝申し上げねばと思った、と当時に関の声が挙がった。竹内壽昭君から喜寿（七十七歳）の祝いを兼ねて九州の地で次回の同期会を開催したい旨の提案があり、一同大きいなる慶をもって了承された。

この同期会は、坂本代表幹事をはじめ各幹事諸氏の努力によるところが大であり、特に本間事務局の綿密な準備、計画及び実行力により滞りなく実施できた。重ねて、関係各氏へ深く感謝しお礼申し上げる。

最後となるが遠路各地から同期会行事に参加し、ご協力を賜り誠に有難く思う。また、所用、体調不良により止む無く参加できなかった方々も含めて、これからも益々ご健勝で在られるよう祈念し筆を置くことにする。

卒業40周年記念 母校を訪ねる会に参加して

土木 23 回卒 菅家 和洋

平成27年10月25日(日)、母校を訪ねる会が懐かしのキャンパス郡山で行われた。時あたかも北桜会が行われており、40年前に比べて女子学生が多く、華やいだ祭りになっていた。

母校を訪ねる会は我々の学生時代にはなかったが、懐かしの面々が会場の大食堂に集合し、40年振りの再会にそれぞれの思いを馳せた。

再会をした時に、容姿は皆さんそれなりに変化してそれなりの容姿であったが、話をし親睦を深めている間に





40 年前にタイムスリップし、まるで学生時代に戻ったように再会の喜びに喚起した。

ほとんどの同級生は前職を退職し、第二の人生を歩む者、自営でがんばっている者、悠々自適に余暇を過ごしている者、いろいろな人生を送り、みんな良い年輪を重ねていた。中でも、衆議員議員として、現自由民主党の国会対策委員長として、忙しい中駆けつけてくれた佐藤勉君（上写真最前列右端）には、今後の活躍を同窓生として祈りたい。

母校を訪ねる会の前日に、郡山ビューホテルアネックスで昭和 46 年度入学の同級会が行われ、28 名の参加を得て盛況に行われた。この同級会を計画するに当たり、諸般の事情により卒業が遅れたり、退学したりした同級生も参加できるように、昭和 46 年入学生と第 23 回卒業生を冠した同級会とした。

同級会では、挨拶、乾杯に始まり自己紹介を行った。北は北海道、南は四国・九州より懐かしの地、郡山に集結し、酒を酌み交わし、昔話に花を咲かせた。飲む程に、酔う程に懐かしい話で盛り上がり、親交を深めた夜であった。一部の同級生から、老い先短いので 5 年毎に集まって同級会を行いたいとの提案があり、会も盛り上がりを見せ、盛況の内に終わり、各自、郡山の夜を散策したようだ。

今回、本学土木工学科教授の古河君と幹事を務めさせて頂き、至らぬ点は此の書面でご勘弁を願いたいと思います。

これから、何年後に再会できるか判りませんが、皆様の健康を祈ります。

工学部の絆はいつまでも

建築 23 回卒 永田 金治

早いもので卒業してから 40 年の時が流れ、今回「母校を訪ねる会」に初めて参加させていただきました。幸い同級生の土方先生が工学部に残り教鞭を執っていることから、卒業して何回かは工学部を訪ねたことはありましたが、40 年ぶりに当時の仲間達と再会し楽しいひとときを過ごさせていただきました。

前日の夜は建築学科の同級会を開催し 21 名が出席しました。数年に一度定期的に集まっている仲間もいますが、卒業以来初めて会う仲間達が大半でした。しかしながら年齢を重ねて様子が変わっていても何となく当時の面影が残っており、驚くことに若い時そのままの仲間もいて、一瞬で 40 年前の学生時代に戻ったような気がしました。

各自の近況報告では、ほぼ全員が現在も元気に仕事をしており、団塊の世代の直ぐ下にいる私達にとって、各分野で長年培ってきた技術を次の世代に継承していくことが大切であることを実感しました。また、5 年前に発生した東日本大震災に関連して現在も復興の仕事に携わっている仲間が多いことに驚きました。地元に住んでいて被害を受けながらも、ボランティアで復興のために現在も駆け回っていることや、遠くから災害復旧の支援で福島県に来ていること等の報告があり、工学部で学んだ技術や社会に貢献する精神が生かされていることに感動するとともに頼もしさを感じました。

母校を訪ねる会の当日は、やや風が強く寒い日でしたが天気は良く、澄み切った青い空、工学部のそばを流れる阿武隈川、遠くに見える安達太良山は当時と変わらない姿で私達を迎えてくれました。懇親会では他の学科の友人達とも久しぶりに会うことができました。それぞれが堅実な人生を過ごし、年は取っていても昔と変わらない元気な様子の友人達と楽しく話をすることができ、参加して良かったとつくづく思いました。また、応援団による校歌や応援歌、応援団長の門外不出の日大節を披露していただき感激しました。

私達は多くの工学部の先輩達にお世話になり、一方で後輩達とも一緒に仕事をする機会がありましたが、工学部出身ということで特別な関係が生まれます。このかけがえのない一体感が工学部の絆であると思います。私にとって郡山は第二の故郷であり、工学部では学問とともに社会人としても育てていただきました。現在も活躍している仲間達に刺激され、私も当面の間は現在携わっている仕事を通じて、少しでも社会に貢献できるよう頑張っていきたいと考えています。仲間達とキャンパスに 10 年後の母校を訪ねる会に参加することを約束して、秋の景色に染まりつつある工学部を後にしました。



母校を訪ねて学生時代を懐かしむ

機械 23 回卒 藤田 伸博

卒業 40 年の今年、校友会より「母校を訪ねる会」の招待をいただいたことをきっかけに、皆と連絡を取り合い、前日夜に同級会を開くことになりました。

10 月 24 日(土)は天候に恵まれ、待ち合わせた舟久保君と郡山駅からバスに乗り、母校に入ると桜並木が見え、懐かしい風景でした。

「北桜祭」の模擬店で賑わっている中を、集合場所の本館へ向かう道すがら、左手前には見覚えのある当時を象徴する図書館があり、通ったことを懐かしく思い出しました。

藤原次長室で逢った数名の仲間と学内散策で、70 号館の 9 階展望台からは磐梯山、安達太良山等が眺望出来ました。キャンパスに目を落とすと建物や設備が全く変わっており、風力発電装置が聳え立ち、時代をリードしているのが窺えます。

福島県は東日本大震災で原子力発電所事故が発生したこともあり、再生可能エネルギーや自然環境が再三話題となりますが、テレビ等のニュースでも放映される「ロハスの家」を見て感慨深いものがあります。

当夜、磐梯熱海温泉、「ホテル華の湯」にて、校友会より佐藤光正先生に参加頂き、今回参加の 10 名（三瓶、高橋、縫、橋本、原田、平林、藤原、舟久保、遊坐、藤田）と同級会を催し、近況報告や学生時代の思い出話等で盛り上がりました。

また、都合で参加出来なかった友達の報告を行い、全員で「北心寮歌」を歌いましたが、この歌を作曲した鈴木隆さんは私の高校時代の恩師とお伝えすると、佐藤先生から母校の歴史を伝える「歴史資料館」を整備中とのお話をいただきました。

翌日（25 日）、会場の記念撮影では小野沢先生始め、教えを頂いた先生方のお顔も拝見することが出来ました。「懇親会」では出村工学部長挨拶から始まり、他学科の人達とも和気あいあいと楽しい一時を過ごすことが出来、明日からの活力に成りました。

式典前に訪れた「歴史資料館」では、第二工学部、工



学部への移行後の写真や授業で使用した教材、器具等が展示され、当時の製図授業等の話をして学生時代を懐かしく振り返りました。

今回訪れたことで、母校が時代と共に発展し、変革していくことが、私達卒業生にも活力となることを感じずには要られない一日となり、本当に有意義な一日でした。

「母校を訪ねる会」前夜の同級会

電気 23 回卒 鋤野 秀三



『「母校を訪ねる会」（10 月 25 日）に合わせ同級会を開催されるなら、その案内状を同封します』と、事務局からの手紙。すっかり忘れていた 10 年毎の同級会——郡山市役所勤務の同級生と共に開催した前回——少しずつ思いだす。早速、家内同士が知人の名倉くん（郡山市水道局勤務）へ連絡し、準備を開始。私たちは定年退職し第 2 の人生を始めた年代、集まるか心配でしたが、19 名参加の返信。当日、会場（郡山駅近くのホテル）受付にいと、懐かしい顔が一人二人と近づいて、思わずお互いの顔が綻ぶ。卒業後、40 年以上も経つのに当時の面影が（でも、ほとんどの方の髪が変化？）。校友会からは、副会長の長澤幸二先生（電気・OB）のご臨席。19 時から開催（司会：名倉くん）、発起人代表として佐藤一夫くん（郡山カルチャーパーク勤務）の「あいさつ」、長澤先生からの「ご祝辞」と続き、私が「乾杯」、酔いが少し回ってきたところで、各人からの「近況報告」。定年後再雇用された方、別会社に勤務された方、病を克服され事業を営んでいる方、様々です。さらに酔いが回ると、全員が当時に戻った感じ——下宿生活・クラブ活動のこと、話が尽きません。あっという間の 2 時間、田部くん（郡山市水道局勤務）コンダクトのもと「校歌斉唱」。皆、歌詞の 1 番だけは憶えています。そういえば入学当時、教室に缶詰めにされ怖い応援団員に校歌の指導（だから体に染み込んでいる）——今はない、そんな風景が脳裏をかすめます。最後は、引き続き田部くんの「万歳三唱」。「もう次はない」と、思って始めた同級会。でも皆が「また、やろう」と、——。

最後に、「母校に教員として残った私が中心では」と、逃げをうった気持ちを汲んで実質すべてをこなしてくれた名倉くん、並びに会計処理をしてくれた橋本くん（郡山市東山悠苑勤務）に感謝致します。

みんな、まだまだ若いぜ！！

土木 33 回卒 小林 英俊



土木工学科第 33 回卒業生同級会は、10 月 24 日(土)午後 6 時から郡山ビューホテルアネックスに 21 名が集い行われました。

当日は、同じフロアでたまたま、第 13、23 回の先輩方の同級会も行われていたことから、受付で「お隣の 23 回…いや 13 回ではないでしょうか？」と大変失礼なことを申し上げてしまった H 子君（注：女性ではありません）、ごめんなさい。

町長、社長、組織の要職に有る者等、立場は様々で、それぞれ難しい年代ではありますが、ここでは皆学生時代に帰り、写真でもわかるように屈託のない笑顔です。

宴会に入り、発起人代表の浜津君の地元郡山感たっぷりなイントネーションの挨拶に、遠くから来てくれた仲間たちも「ああ郡山に来たんだないっ」と思わず心の中でツイートしたことでしょう。

各自の近況報告が進む中、次回 10 年後の目標が立てられました。今回参加者は最低 1 人以上を連れてくること。つまり、参加者倍増計画です。今回参加できず、これを読んでもらえた土木工学科第 33 回卒業生の皆さん、次回は是非ともご参加ください。仲間に会えば、すぐに学生時代にタイムスリップで楽しい時間が過ぎせます。今になってわかることもあったり、新たな発見もあります。発起人代表の浜津君、総元締役の橋本君、宴会取締役の服部君、名司会の森中君（駅まで送ってくれてありがとう）、出納責任者の西澤君、ホテルとの渉外担当の黒金君（今回参加できず残念）、斎藤君（今回参加できず残念）、マタギ界代表の吉野君（学生時代と変わらずで、現在でジャスト年齢）ら幹事の方々、杉崎工学科校友会副会長（男気溢れる土木工学科の頼れる先輩）、村田御大（先生に足を向けて寝れない卒業生は現役国会議員他多数）、工学科校友会事務局の皆様、本当にお世話になりました。最後に、平子君、次回は「失礼ですが、第 43 回卒業生ではごぞいませんか？」になりますよね？笑

追伸：小山君、「もしもピアノが弾けたなら」を歌える

ようにしておいてください。（顔まねは文句無し）それから嬉しいことに、学食の豚汁の味が学生時代と全く変わっていませんでした！！

母校を訪ねる会に参加して

建築 33 回卒 大堀 浩（旧姓 安在）

母校を訪ねる会は今回で 2 回目となります。同期の多くの校友と再会できることを期待しておりましたが、今回の建築 33 回卒の参加状況は自分と高校同級の玉根君、旧足立研究室の同期の大橋君、同じクラスの伊藤さんの 4 名の参加でした。前回同様に寂しい訪ねる会となりました。今回不参加の同期の皆さんは、第一線で活躍中のためと察します。

受付の前に、大橋君と 45 号館の都市計画第一研究室の土方先生（当時助手をしておられました）を訪問しました。研究室（旧足立研究室）は自分達がいた当時のままでした。記念写真撮影会では、土木工学科の堀井先生にも 10 年ぶりにお会いすることができました。懇親会では、大橋君と玉根君の 3 人で応援団の秘技を見ながら、建築 23 回卒の櫻田先輩と懇談しました。

訪ねる会終了後、大学付近の下宿・アパート、郡山駅周辺を散策しました。大学生時代を思い出すと、私の実家は二本松市（旧安達町）にあり、入学から 2 年間は東北本線松川駅から 2 時間掛けて通学していました。高校の同級生と共に 5～6 人で安積永盛駅から川沿いに近道を通りキャンパスへ通学していました。当時、各駅に「東北本線会」という飲み会があり、松川駅は現役と O B との会で歓迎会や忘年会がありました。3 年生からは友達から同居する先輩が卒業するので一緒に住まないかと誘いがあり、製図の課題、実験レポート、教職課程に時間が必要になったこともあり、安積 3 丁目の 3 D K の古い R C 造アパートに友達と同居しました。現在、アパートは取り壊され、歯科医院となっています。郡山駅周辺は、高校が入居する高層複合ビルや駅前ロータリーが整備されましたが、丸井、西武、ダイエーの撤退、閑散とした駅前アーケード街が寂しく感じました。

次回 10 年後は、定年退職後になるのでたくさんの校友の参加を期待したいと思います。



クラブ・OB・OG 会報告

郡山六人会

郡山六人会と叙勲

建築 15 回卒 疋田 躬矩

昭和 42 年度に卒業してから数年後、再会した千葉県在住の同窓生の各々が顔を合わせていましたが、平成 10 年に一堂に会し、ミニ同窓会を始めました。現役時代の多忙な時期でしたが平成 20 年に東京在勤の同窓生にも声掛けし、8 名が集まりました。会では様々な情報交換の後、必ず郡山の下宿等の話で盛り上がりましたので、以来、最初の会に集まった 6 人と郡山に因んで「郡山六人会」と命名しました。

平成 13 年には、本会の母体となったメンバーが幹事となり、卒業後初めて 40 名の参加を得て、建築 15 回卒業全国同窓会を東京麹町会館において開催しました。

本会は、会則はありませんが会長他幹事を置き、春、秋 2 回集まることとしており、1 回は東京新橋で、1 回は平成 22 年からは 1 泊の同窓会が恒例となっています。

最近では、15 回卒業生の他、後輩の皆様の参加も頂き、現在会員は 22 名で、生涯現役、社会貢献を目指し、大いに盛り上がった会合を行っています。校友の皆様の多数の参加をご期待しております。

会員の小野平一さんが平成 27 年春、瑞宝双光章の叙勲を受けられましたことをご報告いたします。

小野さんは卒業と同時に労働省に入庁。昭和 44 年には厚生省に移られ、様々な営繕部署を歴任され、数々の国立病院の整備に貢献され、厚生労働省大臣官房会計課を最後に退職されました。在職中の功績が顕著であり、この度の栄誉に浴されました。また、昨年 11 月 12 日の赤坂離宮での秋の園遊会にもご招待されました。



あかしや建友会

第20回「あかしや建友会」開催報告

建築 19 回卒 柳 啓



あかしや建友会は、福地利夫先生（現名誉教授、94 歳）の提案により、（故）幸田太一教授を中心とする工学部建築学科の建築材料研究室（5 研究室：（敬称略）幸田太一、福地利夫、小栗治男、橋本寛、渡澤正典の各先生）の OB と関係者が集う会として発足しました。

平成 5 年 4 月 10 日に第 1 回を開催して、今年で 20 回を数えました。

今回の「あかしや建友会」は、昨年同様に学部祭（北桜祭）と連携して 10 月 24 日（土）午前 10 時から工学部 70 号館（新教室棟）4 階 7044 教室にて開催されました。

これまで 20 回（22 年間）にわたり開催された概要として下記に示しておりますが、「開催場所」は、日本大学工学部施設を中心に 7 ヲ所、「講演・お話」を行ったテーマは「特別講演（11 題）」及び「招待講演（6 題）」を含めて 73 題にのぼります。また、参加者の総数は、会員、学生、一般参加者を含め約 500 名を超えております。

「第 20 回あかしや建友会」の開催当日は幸運にも快晴に恵まれ、工学部キャンパスは北桜祭に参加した老若男女で賑わいを見せておりました。

開催に先立ち、浦憲親会長（金沢工大教授）から、「発足当初には、本会が 20 回も開催できるとは思っていなかった。継続は力なりの一心で、会員の皆様と手を携えて小規模ながらも地味に運営にあたってきたことが良かったと思います。今後も、よろしくお願いします。」と挨拶された。

引き続き、出村克宣工学部長、本会顧問の橋本寛先生及び渡澤正典先生からご挨拶を賜り、講演会に移りました。参加者は、総勢 20 名でした。

今回の講演会のテーマは「我が国の伝統建築材料 — 土壁の材料について —」で、浦憲親教授（本会会長）の長年にわたる研究成果の総集編を予定の 90 分を超えて



お話しいただき、参会者から多くの質問・意見があり盛会でありました。

講演会終了後は 55 号館スカイレストランにて懇親会が開催されました。開会前に、手塚工学部校友会会長から挨拶を賜り、本会顧問の渡澤正典先生の乾杯により開会、歓談となりました。

自動車部OB会

モーターショー60周年記念 パレードに参加して

機械 53 回卒 山縣 篤



自動車の祭典モーターショー 60 周年を記念してパレードランが開催されました。

天候にも恵まれ、沿道には多くのファンと行き交う人々が注目し、各メディアがこぞって報道するなど、大成功をおさめました。

AM 6 : 30。集合場所である東京プリンスホテル駐車場には往年の名車たちから最新の車両までが続々と入場してきます。ダットサン、カローラ、コスモ、F40、ウルフカウンタック…錚々たる顔ぶれです。まだ日が昇ったばかりで街が目覚めていない中、彼らは乾いた秋空の下、特徴的な音と昔懐かしい匂いをまとってあらかじめ決められたスペースへおさまっていきます。新しく到着したその車特有の吸排気音が聞こえるたびに集合場所にいる人達が色めき、エントランスに注目していました。中でもカウンタックが登場して駐車する時には、他車のオーナーや取材陣皆の注目を集めていました。

AM 7 : 03。石川OBの乗った 510 ブルーバードがキャブレター特有の小気味よいエクゾーストノートを響かせながら晴れ渡った青空の中に“サファリブラウン”色が映える中登場しました。

今回のパレードランへの参加に招待されるのは、純正の状態を保ち、かつ美しいことが挙げられます。とりわけ純正ホイールというのは車が好きな人にとって車を購入して真っ先に交換してしまう代表的なもののためハードルが高らしく、510 ブルーバードにおいてはサファリラリー等での活躍もあってか無改造の個体は少ないそうです。

AM 9 : 30。帝国ホテル前のセレモニー会場に整列したパレード参加車両は日比谷通りを北上し日本橋を渡り銀座をぬけて沿道の方々のたくさんの視線を浴びながら無事に東京プリンスホテルに戻りました。

パレードを無事に終えて豊田章夫氏や西川廣人氏、中村史郎氏はじめ多くの方が 510 を興味深そうに、また懐かしそうに眺めては石川OBと車談議に花を咲かせていました。皆様の青春時代と 510 が重なるのでしょうか、少年のようにはしゃぎながら運転席にすべりこんでシフトの感触を確かめたりしていました。自然と 510 の特徴的なシフトフィーリングの話題になりサーボシンクロだワナーシンクロだという単語が飛び交う中、とある方が知らないときいた時に「お前、そんなもの知らんの？まあ、この仕事しているということに疎くなるもんね。俺も学生の時が一番詳しくあったよ(笑)」と西川氏が無邪気な笑顔でおっしゃられていたのがとても印象的でした。

「工学部自動車部で初めて体験した競技用の 510SSS に乗り、衝撃を受けてから 30 年、今でもその乗り味が忘れられずに今に至りました。」と石川OBが感慨深く語られていました。

このたびはOB会活動のよい刺激となるような機会に恵まれ、ベテランのみならず若手や現役世代にとっても有意義な取材をすることができました。

このような貴重な機会を下さった方々に改めてお礼申し上げます。



支部活動報告

北海道

建築 25 回卒 北海道支部長 横関 一伸

本年度支部総会は平成 27 年 6 月 26 日(金)に、第 42 回日本大学工学部校友会北海道支部総会及び懇親会を札幌センチュリーロイヤルホテルにて 40 余名の参加者にて、日大工学部校友会より副会長の金澤先輩をはじめ、工学部の浅里教授のご臨席を賜り、総会及び懇親会を行いました。今回は、まず工学部校友会の総会、そして集合写真撮影をして、懇親会へと進みました。懇親会では、工学部の現状を浅里教授に報告頂きました。浅里教授は工学部の状況、郡山の状況、今年度の学部入学者が回復したこと、就職状況は 99%等と事細かく報告を頂きました。

東日本大震災後の北海道も建築土木に従事する作業員の不足の状態がかなり続いています。郡山での学生生活を思い出し、みんな元気を出してこれを持ち切り、元気いっぱいのを誓い、日本大学の絆を、そして日本人の絆を又深める一日となり、ご来賓の皆様方とともに二次会へと繰り出しました。

11 月 20 日(金)には、道南支会の総会及び懇親会を函館にて行い、20 余名の参加を数えましたが、かなり盛り上がり、夜遅くまで昔話に花を咲かせ、来年の再会を誓い合って解散しました。

来年度は 4 月下旬工学部単独で開催致します。

尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。

関東

土木 20 回卒 関東支部長 小林 啓一

関東支部は東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、栃木県、長野県、茨城県、群馬県、山梨県の 1 都 8 県で構成されています。うち 1 都 5 県に、東京都校友会、神奈川県校友会、埼玉県校友会、千葉県校友会、栃木県校友会、長野県校友会を設置し活動を行っております。また、茨城県、群馬県、山梨県には各県担当者を置いており、支部の総会、役員会に出席し校友の絆を深めております。

平成 27 年 4 月からの総会、役員会は、9 月に関東支部役員会、7 月に千葉県校友会役員会、11 月に栃木県校友会総会を実施しました。平成 28 年 2 月に東京都校友会総会などを予定しております。

関東支部では、本部校友会で箱根駅伝応援活動を始めた当初から応援活動に参加し応援を行ってきております。今年は、工学部応援団も参加し大手町、箱根で応援団による応援を行いました。神奈川県校友会では、毎年横浜高島町交差点付近の応援を担当し応援活動を行っております。大手町、高島町交差点付近での箱根駅伝応援に校友の皆様の参加をお待ちしております。

北陸

土木 22 回卒 北陸支部長 神林 幸夫

本年度の活動として、第 15 回北陸支部定時総会及び懇親会を平成 27 年 7 月 25 日(土)に新潟東映ホテルにて開催し、43 名の方より出席をして頂きました。来賓として、校友会本部村田相談役／アカシヤ教育研究会より渡邊太一先生よりお越し頂き、工学部の現況、就職状況等のお話を頂きました。又、例年通り懇親会には、父母会新潟県支部藤田支部長ほか 5 名の父母の方より出席をして頂き、会員との交流を図ることが出来ました。懇親会では校歌、若きエンジニア等の歌を全員で歌い、日本拳法部OBの若手会員から演武の披露があり、大変盛り上がりました。懇親会終了後は二次会～三次会と流れて無事総会を終了することが出来ました。9 月 5 日(土)には懇親ゴルフ大会を「紫雲ゴルフ倶楽部」に於いて 4 組で行い、昨年に引き続き硬式野球部OBの方が 3 名参加し、楽しい 1 日を過ごすことが出来ました。



他役員会を随時開催し、報告事項・今後の活動について意見交換を行っている事が活動内容となっております。今後の検討課題として、会員との交流がゴルフ大会のみで、多くの会員が参加できる催しは何か？を考え支部活動を活性化したいと思っている所です。

最後に校友会の増々の発展を祈念するとともに、今後とも支部活動に対し、ご指導・ご支援をお願いし活動報告と致します。

東海

土木 28 回卒 東海支部事務局長 近藤 直幸

校友諸兄におかれましては、益々ご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

平成 27 年度の東海支部の主な活動と致しましては、7 月 17 日(金)に名古屋東急ホテルにて支部総会を開催しました。来賓として校友会から手塚公敏会長、工学部から古河幸雄土木工学科主任をお招きして、それぞれ大学の近況等のご報告をいただきました。

引き続き行われた議事にて活動報告、会計報告等も承認され、その後、記念講演として梅沢良三先輩を東京よりお招きし木造建築についての講演会を開催し、懇親会に移りました。懇親会では和気藹々と楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

また、年末には忘年会を開催して、来年も元気に再会する約束をして散会しました。

当支部では上述の通りの懇親会や忘年会にて校友同士の親睦を図っております。しかし当支部においても若い世代の参加者が少なくなっているのが現状です。郡山という共通の地で過ごした面々が、世代を超えてこうして集まることが出来る場があることは大変貴重なことであります。それを絶やさぬよう若い世代の参加を促すような機会を設けるなど、今後の支部発展に繋がる活動をしていきたいと思ひます。



東東海

土木 27 回卒 東東海支部長 大澤 俊幸

平成 27 年 10 月 30 日(金)午後 7 時から東東海支部の総会ならびに懇親会が開催されました。今年度は中部地区が担当、中部地区の会員を中心に約 70 名の校友会員が東は三島から、西は浜松から参加していただきました。また校友会本部からは手塚校友会会長が、工学部からは機械工学科の横田教授が来賓としてお見えになり、御挨拶をいただきました。

今回は特別な企画として静岡ガス執行取締役東部支社長の海野和雄様より、ワールドカップ連続 3 回出場、イングランド大会日本選手最年長 37 歳の工学部機械工学科卒大野均君の話をさせていただきました。現在は東芝に所属、国際テストマッチ出場は歴代最多であるそうです。ワールドカップ・イングランド大会初戦南アフリカ戦にスタメンで出場、『世界のハードワーキング集団』の先頭に立ち歴史的勝利に貢献しました。その試合を現地にて観戦した海野様より大野君の活躍、性格、大学時代等含めて楽しい話をいただきました。11 月 28 日(土)に静岡エコパスタジアムにて東芝と Honda の試合が開催されるので是非応援をお願いしますと話がありました。その後は乾杯があり懇親会となりましたが、途中で新人会員 9 人の紹介ならびに自己紹介があって大いに盛り上がりしました。

最後に来年度は西部開催となるので、開催地区を代表して静岡県土木職員の三浦様より万歳三唱があつて中締めとなりました。自分のように学校の教員は狭い世界で先生、先生と言われて『井の中の蛙』のような存在になってしまっています。いつもこの会に出席すると世の中の流れ、社会の動き、技術の進歩等々をお教えいただく良い機会と捉えています。何と言っても日本大学工学部を卒業した絆、和を持ってことにあたる姿勢はどの企業においても人材ではなく人財となっています。頼まれごととは試されごと、返事は 0.2 秒で『はい』か『YES』か『喜んで』そしてさらに相手の期待を上回る中村文昭さんの言葉どおり実践できる卒業生ばかりだと自負しています。今日のこの会をさらに発展させて後輩たちにつなげていければ嬉しいです。益々の日大工学部の発展と校友会の活躍を祈願しております。

四国

建築 33 回卒 四国支部事務局長 藪内 清二

平成 27 年度四国支部総会は、平成 27 年 7 月 4 日(土)に校友会本部より手塚会長をお迎えして、月例会「一木会」の会場である居酒屋「はんぶん」(香川県高松市)に於いて、四国 4 県の校友 26 名の出席により開催されました。総会を六車支部長(土木 16 回卒)の議長のもと終え、懇親会では出席者全員の近況報告を行い、鎌田正昭氏(土木 14 回卒)のエールのもと、校歌を歌って盛会の内に閉じました。今年度は工学部父母会との合同懇親会を開催出来ませんでしたが、今後も検討していくつもりです。

四国支部各県校友会としましては、愛媛県校友会が一昨年就任された永井次郎会長(建築 14 回卒)のもと、10 月 31 日(土)に校友 15 名の出席で開催されました。また、年明けには徳島県と高知県の校友会、そして桜の咲く頃に花見を兼ねた香川県校友会を予定しています。

毎月第一木曜日の月例会「一木会」も毎回 10 名程度の出席で引き続き開催しております。キーワードは「郡山」ですぐ仲間になれるので、いつでも気軽にお立寄り下さい。



新年あけまして、おめでとうございます。

本年もよろしくお願いいたします。

昨年平成 27 年 11 月 27 日(金)に、第 35 回日本大学工学部校友会九州支部総会を、福岡市中央区にあります「平和楼本店」で開催いたしました。

九州全域の案内に福岡近郊以外、大分、長崎、佐賀、北九州から 32 名の参加でした。

総会は脇山支部長(建 56 卒)の挨拶から始まり、事務局より年間の活動報告及び、後藤先輩(機 59 卒)から会計報告があり、懇親会へ入りました。

懇親会開催の挨拶におきましては、校友会手塚会長に、郡山より出席していただき、第二の故郷である郡山、そして母校の近況を教えることができました。

懇親会は、和室で円卓盛り形式での会食でしたが、出席最年長の吉田先輩(建 38 卒)の乾杯のご発声後、皆さまは、ビールを片手に各テーブルを回って、学生時代等の話で盛り上がりおりました。

2 時間の懇親会もあっという間に終わり、全員で「校歌斉唱」と、ご当地恒例の「博多祝いめでた」、「博多手一本」そして集合写真では、皆さまの携帯での写真撮影もあり、かなり予定しておりました会の時間より押していたようでした。閉会の辞は、大分県からはるばる参加の最年少三浦君(建 H 12 年卒)の言葉が閉めとなり、後程の話では、2、3 次会もあり中州でも会長ほかかなり盛り上がったとのことでした。

今後も支部が活性化し、数多くの方が総会に出席していただけるよう、また転勤等で九州に来られた方もたくさん出席して頂いています、就職や転職などの相談もあれば、お気軽に事務局まで声かけ頂けるようにお願いいたします。

※今回総会を行った天神の平和楼本店 3 階「てんじん」で毎月第三木曜日の 18:30 ~ 「アカシヤ会」と銘打って 5 ~ 10 名の懇親会を行っていますので思い出した時に立ち寄ってください。懐かしい郡山の話、子供や孫の話、就職や政治経済の話など幅広く、楽しいひと時を過ごしています。



校友会教員部会(通称アカシア教育研究会)は、工学部卒業の教員が教職課程の充実と母校の支援を目的に設立されました。本会は、永田進特任教授より組織拡大にご尽力頂き、全国各地で支部活動が展開されるようになりました。今年度の活動について報告をさせていただきます。

平成 27 年 12 月 4 日(金)、工学部学術研究報告会「教育に関する部会」が開催されました。全国各地の会員 13 名から、日頃の教育実践の工夫から日本の工業教育の現状や課題まで報告がありました。会場には、会員や学部生など 101 名が参加し活発な意見交換が行われました。また、夜はアカシア教育研究会教育懇談会が郡山ビューホテルで開催されました。ご来賓として、校友会 手塚公敏会長、工学部次長 藤原雅美教授をはじめ 20 名の教職員の皆様にご臨席を賜りました。全国各地の教育現場で活躍する校友が集い、(公社)全国工業高等学校長協会理事長 棟方克夫先生(神奈川県立磯子工業高等学校長・工化 26 回卒)をはじめ校長 7 名(前職含む)、教頭 4 名などの会員 59 名、総勢 79 名が参加しました。藤原工学部次長より、工学部の活躍や教職課程の充実に向けて抜本的改革を進めているとの報告がありました。当時の様子や現在の工学部の様子などの話題で終始和やかな時間を過ごすことができました。

毎年、私達の勤務する高校からも多くの生徒が本学へ入学しています。卒業生が母校で学生生活に意欲的に取り組み、進路決定を果たしていることを伺いました。教職を目指す学生も増加しています。学部長はじめ先生方の日頃のご指導に心より感謝申し上げます。今後共、教員部会は母校工学部の発展のため努めていきたいと思ひます。



エコロジーな水処理をめざして

日本大学工学部機械工学科 教授

機械 30 回卒 田村 賢一

工学部提唱のロハス (Lifestyles Of Health and Sustainability; LOHAS) に沿って、私は酸化チタン (TiO_2) の光触媒反応を利用したエコロジーな水処理装置の開発を進めています。

図 1 で示すように酸化チタン (TiO_2) は、太陽からの紫外線 (UV) を受けると強い酸化力を持つ OH ラジカルを生成し、OH ラジカルは有機物を分解します。この現象は光触媒反応と呼ばれ、UV 照射が続けば半永久的に起こります。

そこで、先ず図 2 に示す濁流でも剥離しない水処理用光触媒プレートを開発しました。I 類タイル表面に TiO_2 粉末と接着剤の混合液体をスプレー塗布して $20\mu\text{m}$ 程度の TiO_2 被膜を作り、 500°C 程度で焼結します。図 2 は一辺が 10cm の正方形プレートです。プレートの TiO_2 被膜は高圧洗浄機による約 3.75MPa の水圧 (洪水時水圧は約 1.1MPa) でも剥離しません。

一方、水処理能力はグルコース溶液を汚染水として使用し、化学的酸素消費量 (COD) で調査しました。ステンレス容器に光触媒プレート 6 枚を入れ、グルコース液 7.5L をポンプで流速 $V=0.05\text{m/s}$ 程度で循環させ、市販のブラックライト (波長は 325nm 、UV 照度

は $1.0\text{mW}/\text{cm}^2$ で、夏場の木陰相当) を照射し、水质計を用いて COD 値を測定しました。

図 3 に COD 値と経過時間の関係を示します。COD 10 (mg/L) は「汚れた水」に相当します。 TiO_2 被膜の塗布速度が $u=0.3\text{m/s}$ のプレートでは 24 時間後の COD 値は「水道 2 級」相当になり、 1m^2 当たりのプレートで 130L の水処理が可能です。夏場の太陽光による UV 照度は本実験の 3-4 倍になるので時間短縮や処理量の増加が見込めます。

最終的には、図 4 に示す外部電源不要、移動可能、低コスト製作の小型装置 (直径 1.5m 程度) を製作し、浄水場内の汚泥の少ない「沈殿池」で数台を稼働させれば、沈殿池の塩素殺菌が不要になります。

なお、本研究内容は 2015 年 10 月 17 日に日本大学工学部で開催された「日本機械学会第 8 回新☆エネルギーコンテスト」に於いて「協賛企業賞 (日本ピーマック株)」を受賞しました。また、この研究は校友の菅野昌樹大学院生及び新校友の津守晃弘、渡辺尚之の両卒業生の多大な協力によるものであり、感謝致します。

研究発展のためには、ご校友による企業支援が必要です。よろしくお願い申し上げます。

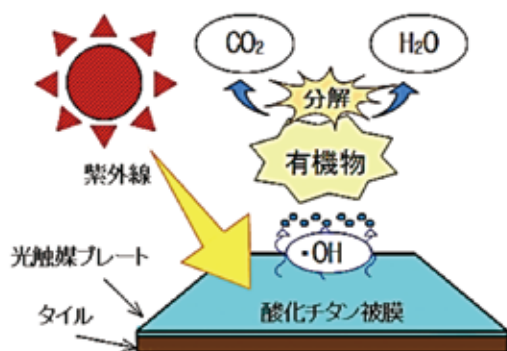


図 1 光触媒の原理



図 2 光触媒プレート

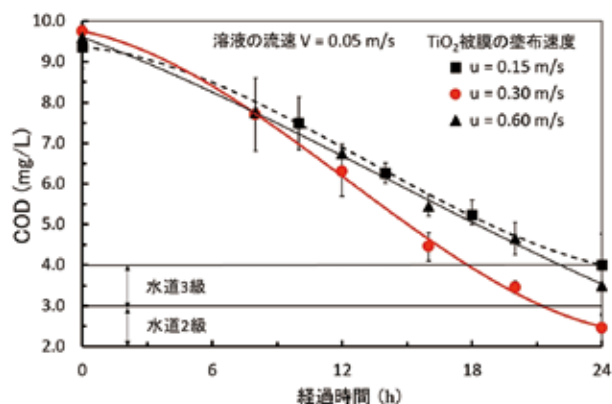


図 3 光触媒プレートによる水処理結果

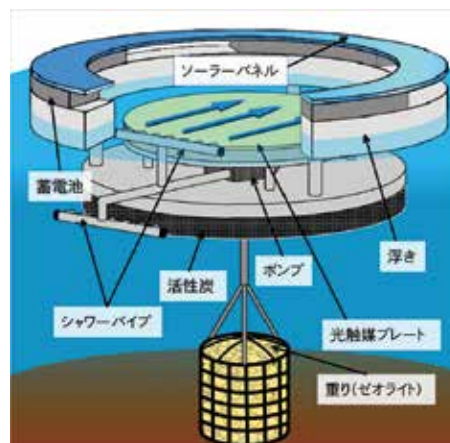


図 4 エコロジーな小型水処理装置の概要

工学部NEWS

●学生募集

工学部では、自分の得意を生かせる多彩な入試制度を設けております。“3教科型と5教科型が選べる一般入試C方式”“校友子女入試”“得意な数学を生かせる一般入試CA方式”など、ご自身の得意分野を生かした受験が可能です。お子さん、お孫さんなど、身近に大学入試を控えている方がおりましたら、ぜひ「日本大学工学部」への進学をご検討下さい。

【入学試験に関するお問い合わせ先】

日本大学工学部 入試係

TEL 024-956-8619 FAX 024-956-8888

E-mail nyushi@ao.ce.nihon-u.ac.jp

※各試験の詳細等については、下記ホームページ(工学部入試案内)をご覧ください。

<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/nyugaku.html>

●工学部教員定年退職者

(平成27年1月～12月)

土木工学科	五郎丸英博	(平成27年3月31日)
	長林 久夫	(平成27年3月31日)
	藤田 豊	(平成27年3月31日)
建築学科	松井 壽則	(平成27年3月31日)
電気電子工学科	尾股 定夫	(平成27年3月31日)
生命応用化学科	西出 利一	(平成27年3月31日)
	野田 吉弘	(平成27年3月31日)
情報工学科	佐藤 晴夫	(平成27年3月31日)
総合教育	永嶋 誠一	(平成27年3月31日)
	鱒澤 彰夫	(平成27年3月31日)
	三浦 隆	(平成27年3月31日)

●工学部平成28年度行事予定

教養講座【総合テーマ：未来へ～東日本大震災を経験して～】

講演月日	講師	演題
5月19日(木)	スポーツマネジメントアドバイザー 永島 昭浩氏	【なぜ、23才以下日本代表はリオオリンピックに出場出来るのか！】
	野球解説者・スポーツコメンテーター 広澤 克実氏	【我が野球人生 ～野村・長嶋・星野に学ぶ～】
5月26日(木)	国立天文台教授副台長 渡部 潤一氏	【宇宙生命は存在するか？～天文学からのアプローチ～】
6月2日(木)	アナウンサー・千葉大学客員教授 木場 弘子氏	【未来の子どもたちに残したい環境の話】
6月9日(木)	評論家 宮崎 哲弥氏	【どうなる日本!? 日本の未来を語る】

オープンキャンパス

日時	名称	主な対象	プログラム
7月18日(月)祝日 10:00～16:00	保護者向け大学見学会 (仮称)	平成29年度入試受験生の保護者	授業参観、学部・学科ガイダンス、個別相談、学食体験
8月6日(土)・7日(日) 9:30～15:30	オープンキャンパス 2016	高校生及びその保護者	学科ガイダンスなど
9月4日(日) 9:30～14:30	受験生のためのオープン キャンパス2016(仮称)	平成29年度入試受験生	学科紹介コーナー、入試全体説明会、アドミッションポリシー説明会、個別相談、学食体験
10月22日(土) 10:30～16:00 23日(日) 10:30～14:00	ミニオープンキャンパス 2016(仮称)	小中学生及びその保護者	学科紹介、オモシロ体験コーナー、情報コーナー

●平成 27 年度課外活動結果一覧

サークル名	大 会 名	結 果	詳 細
バドミントン部	第 103 回福島県学生バドミントン選手権大会	2 位	日本大学工学部A
	平成 27 年度日本大学体育大会	2 位	団体
	第 104 回福島県学生バドミントン選手権大会	3 位	団体
ソフトボール部	第 34 回福島県大学男子ソフトボール選手権大会福島県大会	1 位	
	第 36 回北海道東北地区大学男子ソフトボール選手権大会	1 位	
射 撃 部	第 33 回東北ライフル射撃選手権大会	1 位	50mR3×20w 菊地 映美
	第 68 回福島県総合体育大会	1 位	10mS60M 近内 貴志
		1 位	10mP60M 近内 貴志
		1 位	50m3×20W 菊地 映美
		1 位	10mS40W 菊地 映美
	第 42 回東北総合体育大会	3 位	10mS60M 近内 貴志
	第 37 回東北三県対抗ライフル射撃選手権大会	1 位	エアーライフル立射60発 近内 貴志
		1 位	スモールボアライフル三姿勢60発競技 菊地 映美
	第 37 回福島県ライフル射撃選手権大会	2 位	10mS60M 近内 貴志
		1 位	50m3×20MW 菊地 映美
弓 道 部	第 66 回東北地区大学体育大会	3 位	男子個人 湯口 直
	第 10 回東北地区学生弓道選手権大会	1 位	荒木田 優哉
	第 55 回東北地区秋季学生弓道大会Ⅱ部リーグ	1 位	荒木田 優哉
		3 位	団体
	第 37 回全日本弓道連盟会長杯争奪福島県弓道大会	1 位	荒木田 優哉
		3 位	団体
	第 61 回東西学生弓道選抜対抗試合	1 位	荒木田 優哉(東軍)
	第 19 回東北学生弓道新人戦	2 位	団体
		3 位	荒木田 優哉
水 泳 部	第 66 回東北地区大学体育大会	3 位	男子100mバタフライ
卓 球 部	平成 27 年度郡山卓球選手権大会	1 位	一般の部
	第 68 回福島県総合体育大会	3 位	リーグ戦
	平成 27 年度日本大学体育大会	3 位	女子 鈴木 涼子
洋 弓 部	第 12 回福島県学生アーチェリー選手権大会	1 位	30・50 橋本 峻平
		2 位	30・50 佐藤 颯一朗
		3 位	30・50 薄井 信明
		1 位	30W 土門 崇丈
		2 位	30W 根岸 樹生
陸 上 競 技 部	平成 27 年度日本大学体育大会	1 位	男子400m 八巻 翔
		1 位	男子1500m 伊藤 和輝
		2 位	男子1500m 津藤 圭佑
		2 位	男子走り幅跳び 田中 道寛
		3 位	男子4×100mR
		3 位	女子走り幅跳び 佐藤 真里奈
		1 位	女子1500m 佐藤 真里奈
		2 位	男子総合
	田村市ビートル駅伝大会	1 位	日本大学工学部A
剣 道 部	郡山市民大会	1 位	一般男子三段以下の部 紅谷 昂
		2 位	一般男子三段以下の部 高橋 智史
		3 位	一般男子三段以下の部 片岡 直樹
		3 位	一般男子四～五段の部 久保田 勇希
杖 道 同 好 会	第 20 回東京都杖道大会 花の江戸杖	2 位	日本大学工学部D
		3 位	日本大学工学部B
		2 位	見田 豪介
吹 奏 楽 部	第 53 回福島県吹奏楽コンクール	銅 賞	

校友会NEWS

●課外活動への支援

体育会・学術文化サークル連合会所属の7団体と全国大会出場の1団体に課外活動支援金の援助を行いました。各サークルから寄せられた感想と今後の意気込みを紹介します。

支援団体からの感想

体 育 会

団 体 名	感 想
剣 道 部	今年はより多くの大会に出場することができ、また文化祭では模擬店を出店するなど多くの経験が出来ました。来年度も各々の目標に向かい、良い成績が収められるよう稽古に励みたいと思います。
硬 式 野 球 部	支援金は、練習用ボールとバットに使わせていただきました。野球というスポーツは、非常にお金がかかり、部費の徴収分だけでは運営が厳しいため、大変助かりました。今後は各種大会において、結果を残せるよう精一杯努力してまいります。
サ ッ カ ー 部	学生のアルバイトや奨学金等から部費を集め、少ない部費から選手登録や大会登録をしていたので、支援金をもらったことでとても助かりました。今後は多くの新入部員の確保とともに、次の大会、リーグ戦でより良い成績を残すために部員全員で努力したいです。
ソフトテニス部	現在、東北リーグ三部にいますが、二部昇格という目標をもって、上位入賞ができるよう、よりいっそう練習に励んでいきたいです。近年、部員が多く入部しましたが、支援金のおかげで、多くのボールを購入することができ、有意義な練習ができています。
ラ ク ロ ス 部	東北地区ラクロスリーグの試合は宮城県の会場が多く、交通費がかかることが部の運営において一番の悩みでした。今年は支援金のおかげで、部員の金銭的負担を軽くできました。我々の第一の目標は、強くなることです。今年のリーグ戦では不本意な結果となってしまいましたが、このことを部員一同真摯に受け止め、日々練習に励んでいます。また、部員が少ないので、新入生獲得に例年よりも一層注力していきます。今後も目標達成することを目指し、良い結果を残します。
陸 上 競 技 部	支援金のおかげで、様々な大会に出場することができ、部の運営費に余裕ができました。また、今年度大会でベストタイムを出す人が多く、部全体でもオール日大で大学男子総合2位という成績を残すことができました。今年度のよい流れに乗って、ベストタイム更新者をさらに出し、東北大会入賞者、全カレ出場者を輩出できるよう精進を重ねて参ります。

学術文化サークル連合会

団 体 名	感 想
管 弦 楽 部	今年度は前年に比べて人数が増えて、金銭面において苦勞すると思っていたので支援金が非常にありがたかったです。今までずっと出来ていなかった弓の毛替えや弦の補充が出来ました。今年は前年以上に課外活動を積極的に行いました。7月には教会で地域住民に向けたボランティアコンサートを行いました。再演を頼まれたので12月にもクリスマスコンサートを行いました。地域の方々や小さい子まで聴きにきて頂き、演奏会後は楽器体験の時間を設けて音楽の楽しさや音が出る喜び等を伝える事が出来ました。もし演奏会を聴きにきて頂ける機会がありましたらどうか楽しんで下さい。文化祭でも毎年講演会を行っております。

全国大会出場団体

団 体 名	感 想
射 撃 部	今年度は多くの大会で上位入賞という結果を残すことができました。来年度は団体での入賞を目標とし、今年以上に練習に励み、全力で活動に取り組む所存でございます。

電気主任技術者第3種国家試験対策講座の開講

平成 27 年 8 月 31 日(月)から 9 月 2 日(水)の 3 日間、学生に対する就職支援として「電気主任技術者第 3 種国家試験対策講座」を開講しました。近年の就職活動において、有資格者となることは就職戦線を有利に進める上での強力な武器となります。事実、市役所や電力会社等からの資格を有している学生についての問い合わせが増えております。このような現状を鑑み、校友会では学生の就職活動の展開が有利になるよう本講座を開講し、支援を行うことにしました。

受講者は電気電子工学科の学生数名。過去問題の解答、説明を中心に行った講座を学生はしっかりと受講しておりました。



北桜祭実行委員会への支援



北桜祭実行委員会から校友会に物品協賛の依頼があり、北桜祭来場者に無料配布する「クッキー」を提供することにしました。製造は「特定非営利活動法人こんぺいとうの会 ほっこり café まあぶる」に委託し、2,000 枚を 5 枚ずつ小分けにして 400 袋を製造。「協賛：日本大学工学部校友会」のシールを貼り付けたものを北桜祭来場者に配布しました。



学術研究報告会「発表支援金」について

校友会では学術研究報告会で発表を行う校友に対し「発表支援金」の支援を行っております。今年度は以下の 9 名に支援しました。今後、学術研究報告会にて発表を行う際は是非ご活用下さい。(敬称略)

氏 名	卒科 / 回	発表・報告演題
宮崎 拓也	土 49	工業教育に関する教育実践事例 (3)
太田 敬済	土 50	県都の工業高校を目指して～青森工業高校の取り組み～
浦 憲親	建 19	壁土の二オイ吸着に関わる基礎実験 その 1
油井 敏和	建 45	生徒一人一人の自己有用感を高める生徒指導の工夫
田畑 剛	建 52	建築大工技能検定への取り組みについて
千葉 祐揮	建 60	工業教育Ⅱ～定時制教育における進路指導の現状と実践～
小林 邦之	電 52	工業技術基礎・実習における情報系カリキュラムの変更について
田坂 優太	電 57	工業高校における特別支援学校との連携
篠崎 拓也	電 60	茨城県立総和工業高等学校～電子機械科の取り組み～

※ 11 月頃、工学部校友会ホームページにて「発表支援金」についての告知を掲載しております。ご確認ください。
→ <http://www.nichidai-ce-koyukai.com>

『ラグビー日本代表 大野均選手を訪問』報告

建築 62 回卒 田中 啓太



ひとつでも多くの勝利を積み重ねられるよう、日本大学工学部校友会・静岡アカシア会より応援を続けていきます。

去る 11 月 28 日(土) (平成 27 年)、ラグビー日本代表 大野均選手(機械工学科 49 回卒)の歴代代表最多キャップ及びワールドカップ 3 大会連続出場を讃え、工学部ラグビー部 OB 海野和雄様(機械工学科 22 回卒)の御尽力の元、日本大学工学部校友会・静岡アカシア会より記念品の贈呈を行いました。大野選手には、ラグビー・トップリーグ公式戦(東芝－Honda)直後にもかかわらず、力強く、さわやかな対応をして頂きました。

我が工学部の卒業生の誇りである大野選手には、ますますの活躍と日本代表キャップとして、

学術研究報告会「喫茶スペース」の提供

今年度の新事業として学術報告研究会来場者向けの「喫茶スペース」を設置しました。喫茶スペースの名前は「CHAIWALA (チャイワラ)」。ヒンディー語で「喫茶店」を意味します。初めての設置となった今回は 400 名を超えるご利用をいただきました。

今後も継続していきますので、学術研究報告会に参加される方は是非ご利用下さい。



平成 27 年度日本大学工科系校友会連絡会開催



平成 27 年 8 月 29 日(土)、平成 27 年度日本大学工科系校友会連絡会が工学部にて開催されました。工科系校友会は理工学部、生産工学部、薬学部、工学部の四つの学部校友会が連携し、校友会活動を展開しております。年に一度の連絡会は各校友会の輪番制で行われており、今年度は工学部校友会が当番校となり実施されました。

会議は各学部校友会の近況報告等が行われ、会議終了後、四学部の学部長、事務局長をお迎えして、懇親会が開かれました。

また、会議前日には矢吹ゴルフ倶楽部にて恒例のゴルフコンペが行われ、各校友会の役員同士が親睦を深めました。

校友会賞受賞者

平成 27 年 3 月 25 日(水)開催の卒業記念パーティーにて以下の 3 名に校友会賞の授与を行いました。

宮澤 由妃 (生命応用)	学術文化サークル連合会第 41 代委員長
吉川 隆浩 (生命応用)	第 63 回北桜祭実行委員会委員長
ダンダルトルガ (土木)	応援団第 59 代団長

父母会との連携による就職支援

昨年度より学生への就職支援の一環として、父母会支部で開催している父母懇談会に校友会支部役員の派遣をしております。父母会からの依頼に応じたものであり、在校生の父母に対して、支部役員による地元の就職状況の情報提供を行っております。今年度も関東地区を始めとした 5 支部に参加しました。

●アカシア文庫への 寄贈本・寄贈者の紹介

以下の 2 名様より寄贈していただきました。ありがとうございました。

寄 贈 本	寄贈者 (敬称略)
理系のための文章術入門 (化学同人)	西出 利一 (生命応用化学科 元教員)
ユニバーサル・バリアフリー検定 3 級公認テキスト (一般社団法人 日本ユニバーサル・ バリアフリー協会)	西島 衛治 (建 22)

●三世代表彰の対象者募集

日本大学工学部及び校友会では、10 月開催の「母校を訪ねる会」席上において、専門部及び第二工学部、工学部を三世代(祖父母、父母、孫)に渡って卒業した校友をお招きし、表彰しております。

該当される方は、下記の要領で対象者を募集しますので、どうぞ奮ってご応募下さい。

1. 応募資格 祖父母、父母、孫の三世代に渡り専門部及び第二工学部、工学部を卒業した人(自薦・他薦は問いません)。※但し、昭和 41 年 4 月の学部名改称以前の工学部(現理工学部)の卒業生は含みません。○直系にはこだわりません。例:「母方の祖父・父・孫」などでも可。
2. 応募方法 「はがき・FAX・校友会ホームページのお問い合わせフォーム」にて受け付けます。○いずれの方法も必ず「3 人の氏名・卒業年・卒業学科・連絡先(住所・電話番号)」を明記して下さい。書式は指定しません。
3. 応募締切 平成 28 年 7 月 22 日(金)
4. その他 資格対象者には、後日、ご案内をお送り致します。

●住所変更について

転居、転職の際は、校友会事務局までご一報下さい。「電話・FAX・郵便・ホームページのお問い合わせフォーム」にて随時承っております。

●日本大学工学部校友会 会員通信費寄付者ご芳名

(敬称略 平成27年2月1日～平成28年1月31日)

●62 回卒

建 機	築 械	大森 裕太 北畠 伸一	機 械	重岡 竜汰 渡邊 秀太
--------	--------	----------------	--------	----------------

●63 回卒

土	木	大附遼太郎	機	械	野田	俊介
		川瀬 晶子			吉田	勇佑
		齊藤 史明	電	氣	小沼	宏貴
		坂本 正輝	電	子	高橋	佑輔
		福田 麻人			橘	将史
		宮澤 俊			水沼	義也
		丸山 和真			渡邊	宣之
		海野 雅人			宮崎	拓也
建	築	江橋 宏明			叶	俊輔
		片桐 高雅			石川	潤
		渡仲紳之助	生	命	奥山	萌
		萩野谷友香	応	用	佐藤	弘理
		平澤 聖子			田村	亮太
		星 小百合			長	詩織
機	械	相澤由香利			古川	裕貴
		板橋 怜史	情	報	石澤	朋也
		井上 雅也			小野瀬	恵一
		荻野 拓弥			日下	佑哉
		加藤 千晶			熊谷	正憲
		菅野 壮志			佐久間	崇
		小林 悠人			佐藤	達也
		菅原 修			佐藤	宏亮
		中郡 惇			滝田	啓介
		中川 和哉			本田裕	太郎
		二瓶 晟英			八畝	杏平
		増田 俊樹			渡部	岳
		門馬 功次			綿貫	徹
		安田 愛美			小濱	聖治

日本大学工学部校友会各位

平成 28 年 3 月 1 日
校友会会長 手塚 公敏

平成 28 年度 通常総会通知

本会会則第 13 条により、日本大学工学部校友会平成 28 年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

なお、慣例に従えば、本年度の総会は東京開催に予定すべきところでしたが、諸般の事情を勘案しまして、今後は母校工学部での開催と致しました。何卒ご諒承ください。

記

1. 日 時／平成 28 年 4 月 16 日(土) 13 時より
2. 場 所／日本大学工学部 50 周年記念館
3. 議 題／(1) 平成 27 年度会務報告および決算報告
(2) 平成 28 年度事業計画および予算審議
(3) その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催

第 36 回 母校を訪ねる会

日 時／平成 28 年 10 月 23 日(日)

場 所／日本大学工学部 50 周年記念館
(ハットNE)を予定

対 象／第 14 回卒業生 (昭和 41 年 3 月卒業)
第 24 回卒業生 (昭和 51 年 3 月卒業)
第 34 回卒業生 (昭和 61 年 3 月卒業)
第 44 回卒業生 (平成 8 年 3 月卒業)
第 54 回卒業生 (平成 18 年 3 月卒業)

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第 66 回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。

卒業後 50 年以上の校友全員も招待対象としています。どうぞ御来校下さい。

校友会報 第 79 号



発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原 1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL : http://www.nichidai-ce-koyukai.com

発行部数 51,000 部
発行日 平成 28 年 3 月 1 日
発行責任者 校友会会長 手塚 公敏
編集責任者 編集委員長 土方 吉雄



この印刷物はベジタブルオイルインキを使用しております。